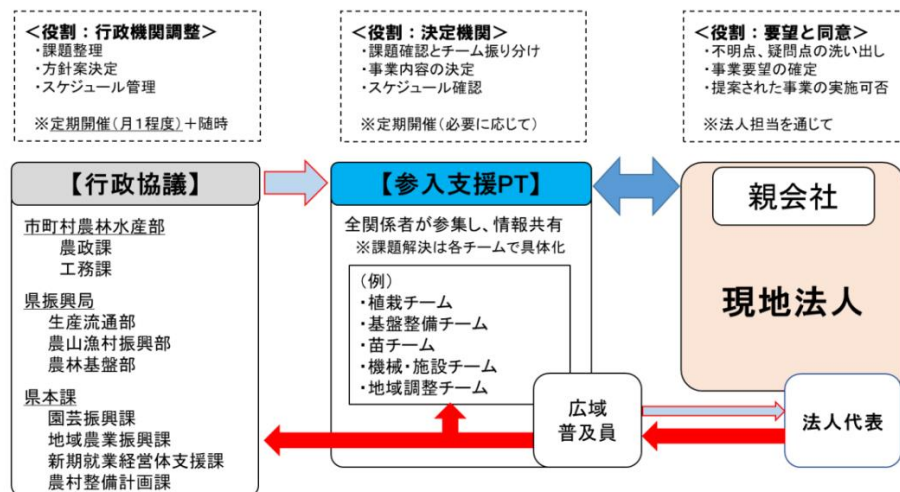


園地の集積・集約化や基盤整備③（大分県の事例）

- 企業参入等の伴走支援チームなど担い手に応じた支援体制を構築するとともに、農地中間管理事業等を活用した基盤整備を実施。
- 比較的小規模な園地整備から大規模な園地整備を同時に進行。今後、県内数十か所で園地整備を実施。

担い手に応じた支援体制の構築



基盤整備に向けた2段階推進

① 実体化に向けた初動対策

- ・ 園芸系事業の活用 (Utilization of horticulture-related businesses)
- ・ 賃借可能園地で早期実施 (Early implementation in leaseable orchards)

② 規模拡大に向けた基盤整備

- ・ 基盤整備事業の活用 (Utilization of infrastructure improvement projects)
- ・ ①と並行で計画、推進 (Planning and promotion in parallel with ①)

①で実体化

①【要望面積】

②

②で本整備

基盤整備による新規果樹団地の整備



⇒ 列植と作業道の確保により、全面乗用機械が運用可能な園地に整備



<R6現在>

- 数十箇所で果樹園地整備 (Infrastructure improvement in dozens of locations for fruit orchards)
- 参入希望面積250ha (Total area of 250ha for participation)

手法を平準化し
県内で広く広める

労働生産性の向上（省力樹形、スマート農業・機械化、大規模経営体の育成・参入）

基本方針

③ 省力樹形等への改植・新植

- 作業動線を単純化し、**機械化に対応して労働生産性を高めることが可能な省力樹形等の改植・新植を推進**する。
- 省力的な樹園地への転換を短時間で実施するため、まとまった面積での省力樹形等への一斉改植を推進する。
- かんきつ等の各品目において**省力樹形等の機械化に向く園地条件や樹形、品種を検討し、開発・導入を進める**。

④ スマート農業・機械化の推進

- **スマート農業技術の導入効果を発揮させる生産方式の確立や当該生産方式への転換に向けた取組を推進**する。
- AIを用いて収集した品質等の選果データを生産方式の転換に活用するなど、データを起点とした果樹農業を推進する。
- 果樹農業の**スマート農業技術・機械化体系の開発・導入**を推進する。
- 労働生産性の向上に資する新品種・新技術の開発、汎用性のある安価な機械の開発、AIなど他分野からの技術転用を進める。

⑤ 大規模経営体の育成・参入

- 果樹産地における**経営の大規模化を推進**するとともに、**大規模な法人経営体等による大規模な省力樹形等への改植・新植を推進**する。
- スマート農業技術の導入を前提とした樹園地の環境整備や流通事業者等との連携等により、販売供給の出口を見据えた作業の合理化、省力栽培技術・品種の導入、労働力の確保等を図り、**生産性を飛躍的に向上させた生産供給体制モデルの構築・横展開**を図る。

大規模効率生産・流通による生産・販売拡大

省力樹形や機械作業体系を導入した生産性の高い果樹農業を実現し、輸出等新たな需要へ販路を拡大。

【生産・流通・販売の特徴】



生産	流通	販売
大区画化、省力樹形や機械作業体系の導入	効率的な選果機の導入	輸出等新たな需要への販売

付加価値

飛躍的な収量の向上、輸出等への販路拡大

りんご高密度栽培による単収の向上（2t→5t）

作業性の改善による就農者や、雇用の増加

雇用による就農者の増加

遊休地の活用、共同利用施設等への投資

遊休地の活用により新たな経済効果を創出

労働量

機械化による労働負担の軽減

省力樹形導入園地における機械導入時の省力効果（労働時間3割削減）

- 大区画で省力樹形や機械作業体系を導入することで、飛躍的な収量の向上が可能
- 遊休地が活用され大規模経営が出現することにより、地域に就農者、雇用を創出、設備投資を促進
- 農業従事者一人当たりが創出する付加価値の増加

目標

生産減少の大きな要因となる温暖化の影響等に対して、**資機材による対策**や**品種構成の見直し**等の検討を進める。
加えて、**高温適応性を有する品種の開発・導入**等を推進する。
気候変動に適応する生産対策と併せて、
化学農薬の使用量低減に資する病害抵抗性を有する品種等の
開発・導入や化学肥料の使用量低減等の
環境負荷低減策・気候変動緩和策を進める。
さらに、社会全体の行動変容につながるよう
食料システムの関係者の環境負荷低減対策への理解を促進する。

基本方針

⑥ 気候変動等への対応

- 生産減少の大きな要因となる温暖化の影響等に対して、**資機材による対策**や、産地における**品種構成の見直し**等の検討を進める。
- **高温適応性を有する品種の開発・導入**等を推進する。
- 気候変動に適応する生産対策と併せて、化学農薬の使用量低減に資する**病害抵抗性を有する品種等の開発・導入**や**化学肥料の使用量低減等の環境負荷低減策・気候変動緩和策**を進める。
- 社会全体の行動変容につながるよう**食料システムの関係者の環境負荷低減策への理解を促進**する。

① 適応技術・基本技術の徹底

- 直射日光を遮断するための**遮光ネット**の設置
- **マルドリ方式**（マルチ、かん水設備の組合せ）による**適正水分・施肥管理**



遮光ネット



マルドリ方式

ネットやマルチ・かん水設備、細霧冷房機等の高温対策に資する資機材の導入支援

② 品種構成・栽培方法の見直し

- リスク分散のため、収穫時期の異なる品種への転換等の**品種構成の見直し**
- 着色のための葉摘み作業をやめて葉を残すことで日焼けを防止する「**葉とらずりんご**」など、**栽培方法の見直し**

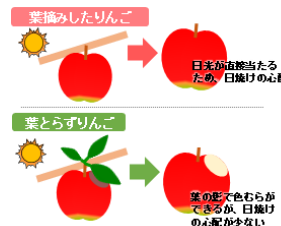
慣行栽培

極早生	早生
-----	----

見直し後

極早生	早生	晩生
-----	----	----

品種構成の見直し



生産者（産地）が判断できる基準の設定

③ 品目の転換

- 温暖化に適応した**熱帯果樹等への品目の転換**
- 海外への輸出も見据えた**地域を代表する逸品の創出**



パッション
フルーツ

アボカド

温暖化に対応した戦略的な産地育成の推進